

多発性骨髄腫

質問

64歳の男性です。腰痛のため受診したところ、腰の圧迫骨折が見つかり、血液検査で多発性骨髄腫の疑いがあると言われました。多発性骨髄腫とはどんな病気ですか。必要な検査や治療法を教えてください。



尾崎 修治
県立中央病院
血液内科 医療局長

回答

多発性骨髄腫は骨の中にある骨髄中の形質細胞ががん化する病気です。形質細胞は細菌やウイルスから体を守る働きをする免疫グロブリンというタンパク質を作っています。その中の一つの形質細胞ががん化すると、骨髄腫細胞となり、同じ型の異常な免疫グロブリン(Mタンパク)を大量に作ります。一方、正常な形質細胞や免疫グロブリンは減り、細菌やウイルスに感染しやすくなります。

骨髄腫細胞は全身の骨髄中で増えるため、赤血球や白血球、血小板を作る骨髄本来の働きが低下し、赤血球の減少(貧血)による疲労感や息切れなどの症状が出ます。また、骨も弱くなり、特に背骨は体重による負担から圧迫骨折を起こしやすく、腰痛などの症状が出ます。骨破壊が進むと血液中のカルシウム濃度が高

体守る力低下 多様な症状



くなり、口のかきみや便秘、意識障害などをきたします。血液中や尿中に増加したMタンパクが腎臓に障害を起こすと、むくみを生じます。このように、多発性骨髄腫は内科的に多様な症状を起こす病気です。

治療には骨髄腫細胞に対する化学療法と合併症に対する支持療法があります。

診断にはまず一般的な血液検査、尿検査、エックス線検査で、貧血や腎障害、高カルシウム血症、骨病変の有無を確認します。血液検査では、Mタンパクによって総タンパクの数値が高くなります。相談者はこの異常を指摘されたのです。

最近では従来の抗がん剤よりも有効で安全性の高いプロテアソーム阻害薬や免疫調節薬、モノクローナル抗体などの化学療法薬が開発され、治療成績は著しく向上しています。

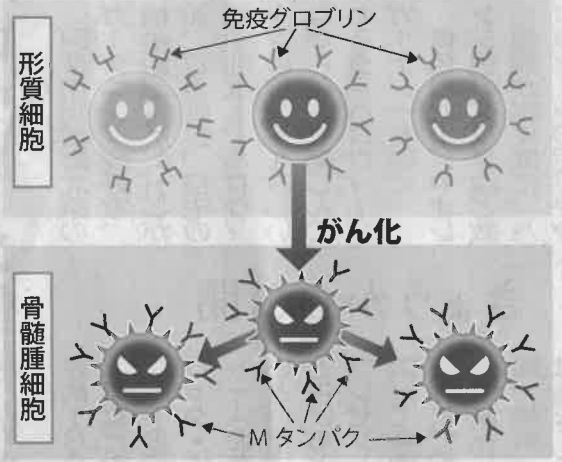
70歳未満で全身状態の良好な患者には、最初はプロテアソーム阻害薬と免疫調節薬、ステロイド薬を組み合わせた治療を行い、安定した時期には自家末梢血幹細胞移植を併用した抗がん剤大量療法を行います。

70歳以上の患者には、プロテアソーム阻害薬または免疫調節薬とステロイド薬による治療を継続します。再発時には薬剤の変更やモノクローナル抗体による治療を行います。

支持療法には貧血に対する赤血球輸血や骨病変に対する薬物治療などがあります。従って、それぞれの患者の病状に合う最適な治療を受けるのが重要です。

相談者は腰痛を自覚している、血液検査の異常がMタンパクであれば多発性骨髄腫の疑いが強いです。血液内科が診療を担当していますので、受診を勧めます。(第4土曜掲載)

化学療法 著しく進展



がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉

(平日午前8時半から午後5時まで)へ。

